



◀第1戦優勝 千田/新保組



**CMSC青森
大西/村上組
JAF第2戦で初優勝**

コルディア4WD JAF全日本ラリー選手権第1・2戦で圧勝。堂々上位独占を果たす!

去る1月26~27日に、本格的スノーラリーとして行なわれた'85JAF全日本ラリー選手権第1戦「第6回スノーイン・クレスト'85」。

北海道苫小牧郊外、ウトナイ湖をスタート・ゴールとしたこのラリーに、「ラリーアート・コルディア」を始めCMSCメンバーを含む計6台のコルディア4WDがエントリー、見事、1・3・4・7位と上位を独占する快挙を成し遂げました。

日高地方の山岳コースをメインとする全長約400kmのコース。第1ステージの白鳥湖で氷上タイムトライアルが行なわれ、第2ステージからラリー区間、スペシャルステージ4カ所を含む、全コース雪の本格的スノーイベントというものでした。

また、続いて2月9~10日に開催された第2戦「第16回DCCSウインターラリー」でも、またまたコルディア4WDが1・2・3位を独占!第1戦

優勝の実績もあって、このラリーでも優勝候補に挙げられていましたが、見事期待に応え、コルディアの高いポテンシャルを実証しました。

本州で行なわれるスノーラリーとして歴史と実績のあるこのラリーは、赤城山をスタートし、軽沢へゴールする、群馬、長野の山岳コース約300kmを舞台としたもの。

スノーラリーとはいうものの、当日は雨が激しく、スペシャルステージの

半数はほとんど雪がない状態。この優勝でコルディアのダート面での確かな走りが実証されたこととなります。

今後、さらにダート路面用としての仕様熟成を進めることにより、第3戦以降についても好成績を挙げられるよう、キット等の改良が進められていますので、どうかご期待ください。

'85 JAF全日本ラリー選手権——レポート from ナビゲーターズシート コルディア4WDスノーラリーで上位をさらい、圧勝!!

第1戦“スノーインクレスト'85” デビュー戦で堂々優勝のコルディア

オールスターラリーでは、久しぶりにケンジロー選手のナビゲーターズシートを体験。その興奮も覚めぬまま、念願の海外ラリー初挑戦のRACラリーを終了し、やっとひと息、という頃には、もう'85 JAF全日本ラリー選手権第1戦は目前に迫っていたのだ。

昨年同様、チームADVANは、来たるべきニューカーの準備のため、冬の1・2戦はお休みと決まっていた。しかし、昨年第1戦をオフィシャルとして過ごした羽豆選手、「今年こそはプライベートでも出場したい」とスポンサー探しに走りまわった。その結果、カーブラザ札幌西のご協力により、スノーラリー用として最高のマシン“コルディア4WD”を使えるメドが付き、秘かに準備が進められていたのである。

1月25日夜、チボラーリ以来半年ぶりの千歳空港に1人淋しく降り立つ。ホテルに着くと、今回“ラリーアートコルディア”で出場する日下部選手やそのサポート役のタスカのメンバーもまだテストから戻っていない。しかし、さすがに北海道、息するたびに鼻の中が凍りつきそうである。12時頃やっと日下部選手をはじめとする“ラリーアートチーム”のメンバーが戻ってきた。羽豆ドライバーも一緒に練習していたとのこと。まずまずの結果で明日の本番が楽しみだそうである。とりあえず石狩鍋で体をあたためる。

1月26日“スノーインクレスト'85”集合地点はいつものウトナイレイクホテル。期待のコルディアは“ラリーアート”の日下部選手はじめ、CMSC青森の館山選手、大西選手、そして京都の走り屋松本選手、地元北海道からは千田選手、それに羽豆選手を加えて、計6台。いずれも“ラリーアート”のスペシャルパーツを組み込んでいる。対する、伝統のスパル4WD勢は、昨年の覇者、加藤選手をはじめ3台である。

まず第1ステージは白鳥湖での氷上トライアル。3台1組で2回のトライアルにスタート。このステージ、所要秒の3倍が減点となる。トップは貴祿のスパル加藤選手、2番手は羽豆選手。

PM7:01、第2ステージラリー区間のスタート。ウトナイ湖から日高高原



第1戦第3位 松本/中村組



第1戦第4位 日下部/田口組



第2戦第2位 羽豆/田口組



第2戦第3位 松本/中村組

へ至るコース。まずは足慣らしと-20°Cの竜門パークのサービスへたどり着く。結果は館山選手がダントツで上り、2位へ浮上。我が羽豆選手がここまで1位をキープ。スパル勢はやや不調で、加藤選手が4位につけているのみ。タスカの石黒社長いわく「コルディアのピリは誰だ！」コルディアの順位がそのまま総合順位にもつながるという大活躍。大西選手の村上ナビは補正が合わないと深刻な顔で、後半を疾走する。

第3ステージ。スタート早々、スパル期待の加藤選手がエンジントラブルでリタイア。残された興味は、コルディアの誰が勝つのか？初めての4WDに戸惑い、調子に乗り切れない羽豆選手であるが無難にまとめ、第3ステージを終了しても、まだ1位をキープ。館山選手は勢いあまってコースアウト。千田選手がペースアップし2位へ浮上。氷上、第2ステージと不調の松本、日下部選手も調子を上げ、大西選手も徐々にペースアップ。2WDで驚異的走りを見せる田中選手以外、上位はコルディア一色である。

さあ、ラストステージ。2カ所のハ

イヤベと4カ所のスペシャルステージが待っている。我らと2位との差はわずか9.2秒。「ここ右!!」危うくミスコースを防いだと思ったら、突然“ガリガリ”という不気味な音と共に2ndのギヤがまったく作動しない!“なんだこれは!”“ペースダウンして走るか?それとも行ける所まで行くか?”もうここまで来たら行くしかない!!と決心してGO!! 昨年のR-8ラリーのこともある、最後までもってこれ! 祈るしかない。しかし、事態は悪化する一方だ。ついにラストの第4SS、3.5kmさえもってくれば、との祈りもむなしく、とうとう息の根を止めてしまった、それもラスト1kmの地点で……終わった。

第2戦“DCCSウインターラリー” コルディアは1・2・3位を独占

北海道での雪辱を晴らすと誓った第2戦、DCCSウインターラリー。

例年のとおり、赤城山、小沼での氷上トライアルで幕明け。DCCS始まって以来という悪天候に見舞われ、予定の2トライは1トライに縮小。それ

でも競技はGO!コルディアのエントリーは、前年のチャンプ伸弥選手、前回の3位に気をよくした松本選手、CMSC青森からは、大西選手、そして羽豆選手の計4台。伸弥選手は氷上で張りきりすぎてコースアウト、スタックのため大幅に後退。この氷上、スパルが意地をみせてトップは清水選手。

前日の大雪、当日の大雨と異常気象のなかでスタートが切られたDCCSラリー。赤城山をスタートとし、いつもの軽井沢、浅間ハイランドパークへ向かう。まずは榛名山の1cpを順調に消化して二度上峠へ向かう。2日前まではまったくのドライであったコースが、雪と雨でシャーベット地獄。それに一般車が走っている!スタックだ!!コンピューターのファイナルが、あっという間にマイナスとなっていく。前回といい、今回といいついていない。

ここで終わりか?と思いつつ次へ進む。ハイランドパークへ戻り、サービスを受けながら情報を集めると、大西選手がダントツで上っていて、我らは2分近く離されている、もうダメだ!!しかし、そのうちに二度上峠の上り区